

# 新しい薬学をめざして

Vol.41 No.7  
2012.10.1

発行 新薬学研究者技術者集団

〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8

E-mail shin-yakugaku@tea.ocn.ne.jp

(有)大阪ファルマプラン・あおぞら薬局 気付

郵便振替口座 01090-8-16463

TEL 06-6477-8080 (担当 稲垣) FAX 06-6477-8082

URL http://pha.jp/shin-yakugaku/



## 消費者委員会による「健康食品」の新たな規制緩和について

中村幹雄

消費者委員会は、本年（2012年）2月～3月にかけて「健康食品」に対するアンケートを実施した。アンケートに基づく新たな施策の方向性として、「『健康食品の表示等のあり方』に関する考え方」を6月に公表した。これを読んで愕然された方も多と思う。

### 1. 経済効果に疑問

「4分の3の消費者が『健康食品』を利用している。今や『健康食品』は、消費者にとって、なじみが深く、関心の高い食品であり、政策的にも、重要な課題の一つといえる」と、消費者委員会は、「健康食品」を肯定的に受けてとめ、重要な課題としているが、それは正しいのだろうか。確かに、トクホを含めた「健康食品」市場は2兆円とも言われ、今や食品添加物の2倍の市場に成長し、GDPの0.4%を占めるに至った。しかし、「健康食品」のコストは、原材料の開発、安全性の確認、製造等の品物の本体に掛かるのではなく、大部分が広告・宣伝費に費やされている。毎日、多くの紙面に広告が掲載され、昼夜を分かたずテレビコマーシャルが流されている。テレビショッピングでも、多くの時間が「健康食品」の販売に割かれている。これでいかにどの経済効果が得られ、いかにどの税収が得られるのだろうか。

次に、「健康食品」を含むセルフメディケーションが医療費の抑制に寄与するとの考え方もあると思うが、欧米では、「治療が遅れるなど、かえって医療費の増加に繋がっている」と見直しの方向にある。米国のNIHは、効能・効果の評価から安全性の評価に比重を移し、英国の大学でも専門学部を廃止したところもあると聞く。セルフメディケーションに対する評価・政策が変わってきている。「健康食品」の拡大（トクホのさらなる緩和？）は、時代に逆行した

### 目次

□健康食品の新たな規制緩和について 中村幹雄……………125	□「薬害」の講義を実施して 佐藤政男……………135
□シンポジウム報告：薬薬連携の経験について 神谷厚子……………127	□こだま1 中村玉枝……………137
□シンポジウム報告：在宅医療における薬剤師の役割 宇都宮勲子……………128	□「薬害根絶デー」の取り組みから 藤竿伊知郎……………139
□シンポジウム報告：在宅医療における薬剤師の役割 新田 亮 山崎好恵 村瀬詩織……………131	□今日も明日も日曜日（23） 三原啓子……………140
	□原発の廃止とエネルギー政策の転換を求める声明 新薬学研究者技術者集団……………141
	□第3回運営委員会報告……………142